

外国語科における 探究的な学びの充実に向けた 単元のデザイン及び 組織的な授業研究について



ワークショップの内容

- 1 目指す授業の明確化
- 2 単元のデザイン
- 3 研究授業の実施及び振り返り

探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

指導案検討会等の流れ

第1回指導案検討会

第2回指導案検討会

第3回指導案検討会

第4回指導案検討会

第2回事後検討会兼
セミナー振り返り

第1回事後検討会

授業研究セミナー

授業研究チーム

授業者を含む高校教員
大学教員
指導主事等

1 目指す授業の明確化

- ①学校教育目標等から外国語科の目標へ
- ②外国語科の目標に照らして生徒の現状を把握し、本単元で育成する資質・能力（単元の目標）を明確化
- ③本単元で育成する資質・能力（単元の目標）から逆向き設計で単元の指導と評価の計画を作成
- ④単元の指導と評価の計画から本時の学習指導案を作成

探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

1 目指す授業の明確化

第1回指導案検討会

- ・アイスブレイク
- ・本授業研究全体のスケジュール及び指導案検討会の方向性の確認
- ・対象生徒の実態の共有と授業者が生徒に身に付けさせたい資質・能力の確認

第2回指導案検討会

- ・学校教育目標等及び生徒に身に付けさせたい資質・能力についての授業者からの説明
- ・生徒に身に付けさせたい資質・能力に係る協議

1 目指す授業の明確化

(1) 対象生徒の実態

- ・英語学習への意欲が高く、言語活動にも積極的に取り組むなど、力のある生徒は多いが、学力差は大きい。
- ・英語学習の目的が、受験で合格するためとなってしまっている生徒もいる。
- ・スピーチの際、ミスを恐れて、覚えていても原稿を見て発表したり、暗記した原稿をただ再生するだけになっていたりする生徒も目立つ。

1 目指す授業の明確化

(2) 学校教育目標との関連

新しい価値を創造し、未来を切り開く人材を育てる

①学ぶ喜びを知り、教養と専門性を高める人

(後略)



- ・卒業後も英語を学び続ける生徒の育成
- ・英語学習を通して、様々な価値観を知り、自分自身の生き方を考えられる生徒の育成

1 目指す授業の明確化

本単元の題材は、2人の日本人大学生がバングラデシュの教育のために尽力する話である。スピーチの際、ミスを恐れて、覚えていても原稿を見て発表したり、暗記した原稿をただ再生するだけになっていたりする生徒も目立つという課題から、本単元では話すこと[発表]の資質・能力を育てたいと考えている。単元終わりのパフォーマンステストは、世の中の課題の何か1つに着目し、それを解決するための発明品やサービスを考え、その内容を英語で発表させたい。

授業者

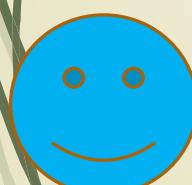


授業研究
チーム



学校教育目標の「新しい価値を創造し」の部分は重要で、ただ発明品やアイデアだけを伝えるような夢物語ではなく、その考えに至った経緯等もスピーチに盛り込ませるようにした方がよい。また、スピーチでは、聴衆を意識することが大切だと思う。

パフォーマンステストを実施するに当たっては、目的・場面・状況をしっかりと設定することが大切なので、この点を具体的に設定していくとよいと思う。



2 単元のデザイン

第3回指導案検討会

※参考：学習指導案（第1稿）

- ・単元の終末に行われるパフォーマンステスト及び評価の改善に関する協議
- ・パフォーマンステストに至るまでの授業における指導方法に関する協議

探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

2 単元のデザイン

1 単元名

Lesson 7 Dear World; Bana's War

Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere

教科書 : Landmark FIT English Communication I



探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

2 単元のデザイン

Lesson 7とLesson 8を併せて、単元計画を立ててみた。どちらのレッスンも主人公が課題に直面し、それを乗り越えた話である。題材・内容に着目し、2つの単元を1つにまとめて、単元の計画を立てた。生徒たちには、Lesson 8の終わりに、社会課題を解決する発明品や取組を考え出してもらい、パフォーマンステストとしてスピーチを行ってもらう計画である。スピーチでは、自分が考えた発明品は何かやそれを考えた理由まで話をさせたいと考えている。

授業者



授業研究
チーム



両レッスンの内容に共通点があり、Lesson 7で学んだ内容や表現をパフォーマンステストに生かすことも可能。しかし、本単元で育てたい資質・能力が共通しているのでなければ、あえて複数単元で計画を立てなくてもよいのではないか。

自分が考えた発明品は何かやそれを考えた理由まで話をさせたいとのことだが、どのように指導していくのかが大切。高校生にふさわしいレベルで、どのように説明したら説得力が出るのかについて、単元を通して指導していく必要がある。聴衆に対し説得力のあるスピーチができると、英語を話すことに自信をもつことにつながると思うので、帯活動の中に必要な要素を少しずつ盛り込むとよいと思う。

2 単元のデザイン

第3回指導案検討会から第4回指導案検討会までの検討

※参考：学習指導案（第2稿）

- ・単元の終末に行われるパフォーマンステスト及び評価の改善に関する協議
- ・パフォーマンステストに至るまでの授業における指導方法に関する協議

探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

2 単元のデザイン

4 指導と評価の計画（計17時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	評価の観点			備考
		知	思	態	
9 (8)	① ペアで、互いに全国の高校生が考えた発明品を読む。その後英語で説明する。【帯活動】 ※ペアごとにそれぞれ違う商品を手に持っている。				評価は行わない。 ただし、上記の活動
1 (17)	パフォーマンステスト	○	○	○	

2 単元のデザイン

授業研究
チーム



1つの単元で17時間かけてしまうのは、他の単元とのバランスが合わなくなるのではないか心配。本単元の目標を達成するために、それだけの時間を費やす必要があるのか、年間を通して4技能5領域をバランスよく育てられているかなどを再度確認しておく必要があるのではないか。話すこと[発表]の資質・能力を育てることに焦点を当てるのであれば、自分で発明品を考えなくてもよいかもしれない。



教科書の内容について、前回のように短いやり取りだけではなく、パフォーマンステストにつながるような帯活動に工夫されていると思う。教師側から情報を与えてしまうよりも、生徒が自分たちで興味のある発明品等についての情報を探し、英語で説明させる形になると、より話す意欲の向上につながると思う。

授業者

指摘されたとおり、本単元だけで17時間も使ってしまうとバランスが悪いと思うので、単元計画をスリム化したいと思う。帯活動で行うSmall Talkの話題は、生徒たち自身で探したものにすることを検討してみようと思う。



探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

2 単元のデザイン

第4回指導案検討会

※参考：学習指導案（第3稿）

- ・パフォーマンステストに至るまでの授業における指導方法に関する協議
- ・パフォーマンステストの実施方法及び手順の確認

2 単元のデザイン

5 パフォーマンステスト実施計画

領域	<input type="checkbox"/> 話すこと [やり取り] <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと [発表] <input type="checkbox"/> 書くこと
関連する Can-Do リスト	第1学年← 日常的、社会的な話題について基本的な語句や文を用いて、自分の意見や気持ちを整理し、簡潔に伝えることができる。
実施内容	<u>自分の生活をよりよくするような商品を発表する。</u> <u>商品は、実際に販売されているものや、全国の学生が考えた Universal Design に関する商品など、自分が友人や知人におすすめしたい商品を紹介する。</u>
実施方法	1. <u>帶活動</u> <u>本文で紹介された内容</u> を踏まえ、課題を立て、発表する商品を調べる。 (個人で行う) 2. パフォーマンステスト実施の前に、生徒同士で発表を行い、お互いの良い部分を吸収し合う。 3. 後日、クラスの人数を2つに分け、発表を行う。

2 単元のデザイン

授業研究
チーム



パフォーマンステストで使用する語彙や文法の定着の観点から考えると、帯活動のテーマは場所や人など多岐にわたるよりも、商品に絞った方がよいのではないか。実生活の中で商品を売り込む際にはいかに買いたい気持ちにさせるかがポイントになると思うので、改善点よりも P R ポイントを入れるようにするとよい。

本時等で行う教科書の本文理解の Q & A を行う際にも、本文に書いてあることを問うものだけでなく、読んだ内容に対して自分の考えを話すようなものを取り入れると、パフォーマンステストにつながっていくのではないか。普段の読む活動も単元末のパフォーマンステストにつながっていることが生徒と共有されているとよい。

帯活動ではスピーチに慣れさせることも目的としているので、テーマは全てを商品とするのではなく、最初の段階では身近で答えやすいものにしたいと思う。後半からは、テーマを商品中心にしながら、探究的な要素を加えていきたい。

本文読解後の Q & A については、内容理解の程度を測ることにしか意識が向いていなかつたが、読んだものを基に自分の考えを話せるために問い合わせ工夫したいと思う。

授業者



探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

3 研究授業の実施及び振り返り

研究授業の様子

※参考：学習指導案（第4稿）、学習指導要領（完成版）



授業動画：<https://youtu.be/aiJJKO5Mqtk>

探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

3 研究授業の実施及び振り返り

第1回事後検討会

- ・研究授業についての振り返り
- ・研究協議についての振り返り

3 研究授業の実施及び振り返り

授業者

英語指導におけるスマールステップの大切さに気付くよい経験となった。帯活動で丁寧に一つずつ積み上げたことの効果は大きいと感じた。また、本文読解後のQ & Aについては、もう少し時間を確保して話し合いをするなど、工夫していきたい。



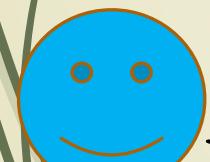
授業研究
チーム

本文読解後のQ & Aは、生徒が自分事として捉えることができる質問を日常的に続けていくとよい。正確性にこだわりすぎずに、英語で自然にやり取りできるようにしていくとよい。

ペアワークの際、英語が得意な生徒が苦手な生徒に発音の仕方を教えるなど、ピアサポートしている場面が見られ、生徒たちが自分たちで改善を図ろうとする非常によい雰囲気が感じられる授業であった。

研究協議でグループを運営していると、帯活動のねらいがうまく伝わっておらず、ゴールとなるパフォーマンステストにつながっているイメージがうまく共有できていない部分があったかもしれない。この点を指導案にもう少しはっきりと記載するとよかつたかもしれない。

一方で、昨年の授業者が昨年の経験を生かし、検討チームでよい働きをするなど、組織で授業研究を行うメリットが感じられた研究セミナーになったと思う。



探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

3 研究授業の実施及び振り返り

第2回事後検討会兼セミナー振り返り

- ・本単元のねらいについての振り返り
- ・本単元を通した生徒の変容や研究セミナー後の生徒の様子
- ・授業研究セミナー全体の振り返り

3 研究授業の実施及び振り返り

本単元の目標

本文の内容、内容に関する実際の例、友人の提供する情報などを踏まえ、自分たちの日常生活をよりよく改善する商品と、それを選んだ理由などを、相手にわかりやすく、自信を持って英語で説明することができる。



意識した言語活動

- ・「帯活動」によって、最後のパフォーマンステストに少しずつ近付けて、テーマやスピーチの技能を少しずつ確認しながら練習を積み重ねること。
- ・「教科書の学びとの連動」によって、教科書本文から主人公がどんな課題をどのように乗り越えたかを読み取って、そこで学んだ語彙や表現などをパフォーマンステストに生かすこと。

3 研究授業の実施及び振り返り

参加者



帯活動の振り返りにおいて、生徒同士のポジティブなフィードバックが印象的だった。どのように指導しているのか知りたい。また、授業研究セミナーに参加して戻った後に、単元の目標を考えるために、自校の学校教育目標を確認した。

授業者及び
授業研究
チーム

以前から帯活動を行う際に、話したかったけど話せなかっ表現をスプレッドシートに入力させるようにして、同じことを何度も繰り返してきた。また、「論理・表現Ⅰ」でスピーチを行った際に、振り返りの仕方やルールを指導した。

生徒がパフォーマンステストの準備を進める中で、紹介しようとする商品が作られた理由や背景などに生徒の興味がどんどん向くようになっているというのは、とても興味深い。何かの商品の説明をただ英語に直しているのではなく、考えを深めている証拠だと思う。

自分の指導を振り返って、教科書の内容把握を確認する際に、答えの決まったQ & Aに終始していることに課題を感じている参加者もいた。本単元では、教科書にたくさんあるよい題材を、生徒が英語で話したくなるようにうまく引き出していくことがよかったです。教科書の内容を教えることに集中するのではなく、教科書でどのように4技能5領域の資質・能力を育て、どのようにその力を測るのかが重要。

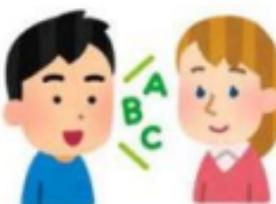


探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

★ 各種参考資料等について

「指導と評価の一体化」に向けた

高等学校外国語科における パフォーマンステスト参考資料 (指導者用資料)



「高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料」は、学習指導要領においての「指導と評価の一体化」の充実を図る際の参考となるように作成したものです。

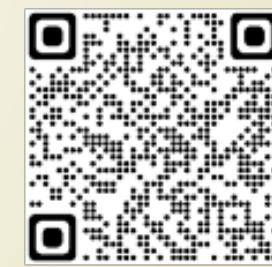
英語教育実施状況調査で見られた、「話すこと」や「書くこと」の発信力を測るパフォーマンステストの実施状況についての課題は、学校において組織的・継続的な取組によって改善を図っていくことが大切です。

本資料が、日々の指導や研修会など様々な場面で活用され、教師の指導の改善や生徒の学習状況の改善につながることを期待しています。

探究的な学びの充実に向けた
単元のデザイン及び
組織的な授業研究について

★ 各種参考資料等について

- 1 北海道教育委員会「高等学校教育課程編成・実施の手引」
- 2 高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料
- 3 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



外国語科における 探究的な学びの充実に向けた 単元のデザイン及び 組織的な授業研究について

制作・協力 北海道教育委員会 国立大学法人東京学芸大学